

血液分野

09-048

日時：平成 21 年 11 月 08 日（日）14：00～17：00；キャンパスプラザ京都

参加人数：36(32)人 分類：専-20

演題 1：止血系検査は情報材料としておもしろい。

－TTP や HIT の検査と症例を中心に－

講師 1：小宮山 豊 先生（関西医科大学）

演題 2：case study 9

講師 2：土田 幸生 技師（京都医療センター）

協賛：ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

関西医科大学の小宮山 豊先生には、止血系検査は情報材料としておもしろい。－TTP や HIT の検査と症例を中心に－として、凝固の基礎から、血栓症の機序、検査の進め方、結果の解釈に加え、実際の症例も提示していただき、幅広く解説していただいた。非常に勉強になるお話しで、楽しく、1 時間半があつという間であった。

case study 9 は京都医療センターの土田 幸生技師により、巨大な Myelomacell の出現している MM の症例を提示していただいた。スライドを見ながら、参加者と一緒に結論を導き出す志向で、活発な意見を出し合いながら、骨髄腫の特徴や鑑別すべき細胞との違いなど、細胞の写真を見ながら、ひとつひとつ解説していただいた。

平成 21 年 11 月 8 日報告：中西 加代子（京都大学医学部附属病院）